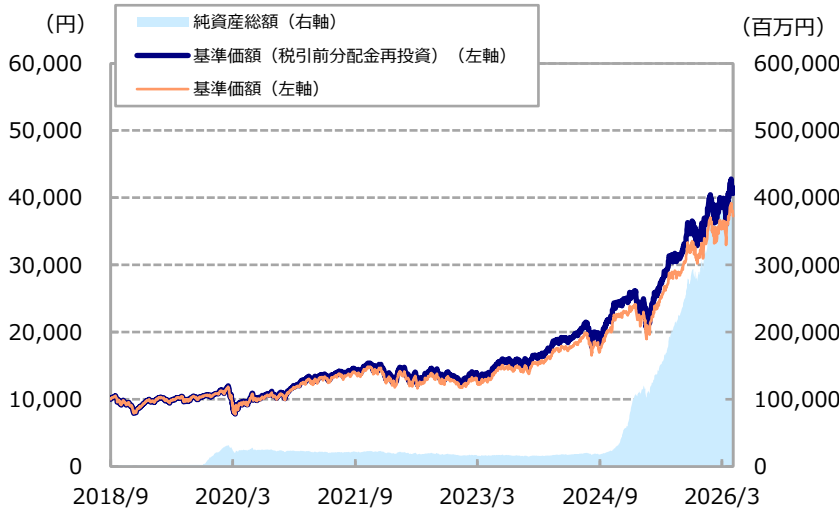




基準価額、パフォーマンス等の状況

基準価額・純資産総額の推移



※基準価額は信託報酬控除後のものです。後述の信託報酬に関する記載をご覧ください。
 ※上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
 ※基準価額は1万口当たりで表示しています。
 ※設定日は2018年9月12日です。

基準価額・純資産総額

基準価額	37,226 円
純資産総額	416,869 百万円

騰落率（税引前分配金再投資、%）

	ファンド
1か月	+13.01
3か月	+6.77
6か月	+12.38
1年	+72.61
3年	+200.12
設定来	+306.27

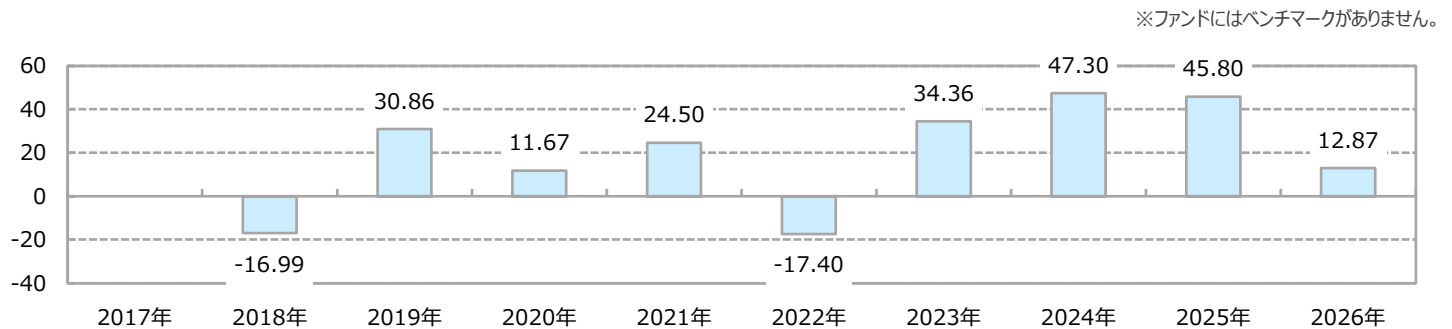
※ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものと計算しているため、実際の投資家利回りとは異なります。

分配の推移（1万口当たり、税引前、円）

期	決算日	分配金
第11期	2024/1/9	100
第12期	2024/7/8	100
第13期	2025/1/7	100
第14期	2025/7/7	100
第15期	2026/1/7	100
設定来累計		1,300

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。
 分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。

年間収益率の推移（%）



※ファンドにはベンチマークがありません。

※ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資したものと計算しており、設定日以降を表示しています。
 ※設定年は設定時と年末の騰落率です。当年は昨年末と基準日の騰落率です。
 ※上記は過去の実績であり、将来の動向等を示唆・保証するものではありません。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・宇宙関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

主要な資産の状況

ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、東京海上・宇宙関連株式マザーファンドの資産の状況を記載しています。

※比率は、純資産総額に占める割合です。業種は、GICS（世界産業分類基準）セクター分類です。

※グループ分類は、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー（以下、ヴォヤIM）による分類です。

資産構成（%）

資産	比率
株式	96.4
短期金融資産等	3.6
合計	100.0

純資産総額	429,804 百万円
-------	-------------

※株式にはREITを含む場合があります。

※短期金融資産等は、組入有価証券以外のものです。

グループ別構成（%）

グループ		比率
グループ1	ロケット・衛星開発製造、打ち上げサービス	34.4
グループ2	宇宙データの利用サービス	16.8
グループ3	宇宙ビジネスを支える関連ビジネス	34.5
グループ4	新たな宇宙ビジネス	10.7

組入上位10カ国・地域（%）

	国・地域	比率
1	アメリカ	78.6
2	日本	5.5
3	フランス	3.8
4	ドイツ	2.1
5	イスラエル	2.0
6	イタリア	1.8
7	カナダ	1.5
8	イギリス	1.1
9		
10		

組入上位10業種（%）

	業種	比率
1	資本財・サービス	41.7
2	情報技術	36.8
3	一般消費財・サービス	6.3
4	素材	4.1
5	コミュニケーション・サービス	4.0
6	金融	2.5
7	ヘルスケア	0.9
8		
9		
10		

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

主要な資産の状況（続き）

組入上位10銘柄（%）

	銘柄/国・地域/業種/グループ	比率	銘柄概要
1	ルメンタム・ホールディングス アメリカ 情報技術 グループ3	8.1	光通信と産業用レーザー製品が主力の米国企業。広範な製品ポートフォリオとグローバルなプレゼンスを有し、クラウド部門ではデータセンター向け光通信モジュールなどを手掛けており、産業部門では3Dセンシングや精密加工向けに高精度のレーザー技術を応用した製品を供給している。
2	ロケット・ラブ アメリカ 資本財・サービス グループ1	3.3	米国カリフォルニア州を本拠とし、ニュージーランドにも打ち上げ拠点を持つ宇宙開発企業。安価・高頻度・即応性を強みとする小型衛星の打ち上げサービスが主力。宇宙機器（ソーラーパネル、姿勢制御装置など）も手がけ、NASAや米国防総省向けに多数の契約実績がある。
3	インテュイティブ・マシーンズ アメリカ 資本財・サービス グループ4	2.9	月面アクセス、月周回軌道への輸送、宇宙関連システム、月での通信を含む宇宙サービスとテクノロジーを提供する。
4	パランティア・テクノロジーズ アメリカ 情報技術 グループ4	2.5	ビッグデータ分析のほか、防衛や情報収集を目的とした企業や政府向けのツール、宇宙関連アプリケーションのソフトウェア・プラットフォームを開発。同社のプラットフォームは、特に政府や情報機関などの顧客のさまざまなソースから収集した関連データを分析することで、宇宙関連を含めた問題解決を可能にしていこうと考えている。
5	セレスティカ アメリカ 情報技術 グループ3	2.4	主にコンピューターおよび通信企業向けに製品とサービスを提供するグローバルなEMS（電子機器製造サービス）企業。設計・製造・サプライチェーンサービスを一貫して行う。
6	プラネット・ラブズ アメリカ 資本財・サービス グループ3	2.1	地球全体を毎日継続的に捉えるための画像衛星群の設計、製造、運用を通じて、衛星画像と地理空間ソリューションを提供。
7	クラウドフレア アメリカ 情報技術 グループ3	2.1	ウェブサイトの速度向上を目的としたコンテンツ配信ネットワークを提供しているほか、セキュリティを向上させる技術を提供。NASAやその他宇宙関連機関などの多くが、ドメイン・ネーム・システムによるインターネット・トラフィックのモニタリングを含め、ウェブサイト上のトラフィックを確認できる同社のソフトウェアを使用している。
8	アーム・ホールディングス アメリカ 情報技術 グループ2	2.0	エネルギー効率の高いCPUアーキテクチャ（基本構造）を設計し、ライセンス供与とチップごとのロイヤルティを通じて収益化を図る半導体IP企業。
9	エヌビディア アメリカ 情報技術 グループ2	2.0	画像処理半導体を開発し、主にゲーム向けやデータセンター向けとして製造・販売。NASAの共同研究企業による同社製品の活用例として、NASAの気候シミュレーションセンターで大気汚染形成のモデル化を目的としたデータサイエンス・ソフトウェアに使用されている。
10	エルビット・システムズ イスラエル 資本財・サービス グループ1	2.0	イスラエルの防衛・宇宙関連企業。航空宇宙、陸・海軍システム、指揮・統制・通信・コンピュータシステムや、情報・監視・偵察システム、無人航空機、電子光学、電子戦システムなど、幅広い分野で事業を展開、民間航空分野にも進出している。

組入銘柄数

70

※銘柄概要は、ヴォヤIMの情報を基に作成しています。

※上記のコメントは、基準日時時点の組入銘柄の紹介であり将来変更する可能性があります。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

ファンドマネージャーコメント

＜市場概況＞

【株式】

月前半は、米国とイランの2週間の停戦合意により地政学的リスクが後退したことや、原油価格が急落したことを受け、FRB（米連邦準備制度理事会）の年内利下げ観測が再浮上しました。その後、米国・イラン間の協議は決裂したものの、中東紛争の早期解決への期待は維持されたことから、海外株式市場は上昇しました。月後半は、イスラエルとレバノンの10日間停戦合意や、トランプ米大統領がイランとの停戦を延長したことに加え、堅調な企業決算が好感されたことがプラス要因となり、海外株式市場は上昇しました。以上のような環境下、海外株式市場は前月末対比で上昇しました。

【為替】

米ドル円為替レートは円安米ドル高となりました。中東情勢の緊迫化により原油価格が高騰し、インフレ圧力が改めて意識されたことで、FRBによる早期利下げ観測が後退した一方、4月の日銀金融政策決定会合での利上げ観測が後退し、日米の実質金利差の拡大が継続するとの見方が強まりました。金融政策の方向性の違いに加え、原油価格高騰で実需の円売り圧力も根強く、日本当局による為替介入への警戒感を押し切ったことで、円安米ドル高となりました。

＜宇宙関連分野の主な動き＞

宇宙関連のニュースでは、NASAが4月初旬にアルテミスIIミッションを成功させ50年以上振りに有人月周回飛行を実現するとともに、計画中のアルテミスIIIの月面着陸に先立ち、次世代有人宇宙船であるオリオン宇宙船とスペース・ローンチ・システムの性能を実証しました。同時にNASAは、打ち上げ頻度の向上と実行リスク低減を図るため、SpaceX社の大型ロケットであるスターシップを引き続き今後の月輸送アーキテクチャの中核要素として位置づけています。SpaceX社は4月を通して非常に高頻度での打ち上げを実施しており、スターリンク拡張専用のファルコン9ミッションを複数実施しました。その結果、スターリンク衛星打ち上げ数は年初より1,000基を超え、再使用可能な打ち上げロケットと急速に拡大しキャッシュデータを生み出すブロードバンド衛星コンステレーションを組み合わせた垂直統合型事業モデルの強みを改めて示しました。さらに、米国規制当局は打ち上げ事業の商業化に向けて一歩前進しました。連邦航空局は、2026年から商業打ち上げおよび再突入に対するペイロード（人工衛星や探査機などの搭載貨物）ベースの利用料の査定を開始すると発表しました。これは、SpaceX社が主導する打ち上げ活動の規模拡大を反映した政策転換であり、打ち上げ事業者および衛星事業者にとって新たなコストおよび規制上の考慮事項となるが見込まれます。なお、4月末現在、SpaceX社は未上場です。

＜運用状況＞

当ファンドの基準価額（税引前分配金再投資）は保有銘柄の価格上昇がプラスに寄与し、13.01%上昇しました。個別銘柄では、高速データ伝送に使用される高性能レーザー、光チップ、トランシーバーなどを提供しているルメンタム・ホールディングスが3か月連続で寄与度上位銘柄となりました。宇宙空間におけるデータ伝送や次世代通信インフラへの投資が加速していることを背景に、高速光技術に対する強い需要見通しが引き続き株価に織り込まれ、株価は上昇しました。さらに、AI駆動と宇宙ベースの接続を実現する中核技術としてフォトニクスへの期待が高まったことも追い風となりました。複数年にわたる需要拡大と利益率改善への確信が高まり、魅力的なリスク・リターン特性を有することから、引き続きポートフォリオ最上位保有銘柄となっています。また、NASAや民間パートナー向けに、月面着陸機、軌道上データ伝送、月面へのペイロード輸送を専門とするエンドツーエンドの宇宙インフラおよびサービスを提供しているインテュイティブ・マシーンスも寄与度上位銘柄となりました。米国宇宙軍向け予算の大幅な増額案を受けて株価は上昇しました。この動きは、衛星通信やミサイル防衛技術に対する将来的な資金拠出の拡大を示唆するものです。宇宙に関する高いテーマ性に加え、魅力的な長期的成長環境と持続的な需要ドライバーを有することから、4月末にポートフォリオの保有上位3銘柄の1つになりました。一方、既存および新規ミサイル、防衛、宇宙プログラム向けのミッション・クリティカルなシステムの設計、試験、製造、販売を行う米国の防衛・宇宙関連銘柄が寄与度下位銘柄となりました。防衛関連銘柄全体への市場の注目が集まったことや、業績の急成長から年初来で株価が急騰していましたが、中東における地政学的リスクが後退したことで株価は一時調整局面を迎え、寄与度下位銘柄の一つとなりました。

＜今後の見通しと運用方針＞

宇宙関連セクターは、巨額投資が先行する段階からスケール（成長性のある）で利益を生み出すインフラへと移行しつつあり、長期的に魅力的な投資テーマであると考えています。打ち上げコストの低下と打ち上げ頻度の増加により、衛星ブロードバンド、Direct-to-Device接続、そして低軌道衛星コンステレーションの普及といった分野で、引き続き商業活動が加速しています。政府の需要および国家安全保障上の優先事項は依然として重要な柱であり、通信、情報収集、監視・偵察（ISR）分野や強固な宇宙インフラへの投資が拡大しており、受注残の見通しを高めるとともに、官民連携を一層強化しています。今後さらなる拡大が見込まれる宇宙関連ビジネスはまだ成長の初期段階にあり、十分な投資機会があると考えていることから、今後もリサーチによる銘柄発掘を通じて長期的なパフォーマンス向上を目指します。

※ヴォヤIMの情報を基に記載しています。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

ファンドの特色（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

- 日本を含む世界の取引所に上場されている株式等の中から、成長が期待される宇宙関連企業の株式等に投資します。
 - 宇宙関連企業とはロケット等の輸送機や衛星の製造、打ち上げサービス、衛星や地上設備の運営、衛星データを活用した通信・情報サービス、関連ソフトウェア、その他周辺ビジネス等の提供を行う企業をいいます。
 - 衛星、ロケット等の宇宙機器製造や衛星を利用したサービス等の宇宙関連産業は、打ち上げや製造等の関連技術の向上に加えて、情報通信インフラの高度化や自動車、産業機器の自動化等のイノベーション（技術革新）の需要が重なり、中長期的な成長が期待されます。
- 銘柄の選定にあたっては、高い技術力や競争力等を持つ宇宙関連企業と判断する銘柄の中からファンダメンタルズ分析を考慮して行います。
- 宇宙関連企業の株式等の運用は、「ヴォア・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー」が行います。
- 外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行いません。

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

【分配金に関する留意事項】

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全額が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

ファンドの主なリスクについて（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

- 投資する有価証券等の値動きにより基準価額は変動します。したがって、**投資元本は保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。**
- 運用による損益は、全て投資者に帰属します。**
- 投資信託は**預貯金や保険と異なります。**
- ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定されます。

■ 価格変動リスク	: 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります（発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。）。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。
■ 特定のテーマへの集中投資リスク	: ファンドは、宇宙関連企業の株式に集中的に投資するため、幅広い業種・銘柄に分散投資を行うファンドと比較して、基準価額の変動が大きくなる可能性があります。
■ 為替変動リスク	: 外貨建資産の円換算価値は、資産自体の価格変動の他、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合には、基準価額が下落する要因となります。
■ カントリーリスク	: 投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想以上に下落したり、投資方針に沿った運用が困難となることがあります。また、投資対象国・地域には新興国が含まれています。新興国を取巻く社会的・経済的環境は不透明な場合もあり、金融危機、デフォルト（債務不履行）、重大な政策変更や様々な規制の新たな導入等による投資環境の変化が、先進国への投資に比べてより大きなリスク要因となることがあります。さらに、新興国においては市場規模が小さく流動性が低い場合があり、そのため組入資産の価格変動が大きくなる場合があります。
■ 流動性リスク	: 受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・宇宙関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

お申込みメモ（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

購入単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して、5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時30分までに、販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。なお、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込不可日	以下に該当する日には、購入・換金のお申込みができません。 ・ ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ ニューヨークの銀行の休業日
信託期間	2044年7月7日まで（2018年9月12日設定）
繰上償還	以下に該当する場合等には、繰上償還することがあります。 ・ 受益権の総口数が10億口を下回ることとなったとき ・ ファンドを償還することが受益者のため有利であると認めるとき ・ やむを得ない事情が発生したとき
決算日	1月および7月の各7日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年2回の決算時に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。 ※分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。
課税関係	収益分配時の普通分配金、換金時および償還時の差益に対して課税されます。 課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は、税法上、一定の条件を満たした場合に少額投資非課税制度「NISA」の適用対象となります。ファンドは、「NISA」の「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 ※税法が改正された場合等には、内容等が変更される場合があります。

ファンドの費用（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

■ 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して <u>上限3.3%（税抜3%）</u> の範囲内で販売会社が定める率をかけた額とします。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

■ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの純資産総額に <u>年率1.8425%（税抜1.675%）</u> をかけた金額とします。
その他の費用・ 手数料	以下の費用・手数料等がファンドから支払われます。 ・ 監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 ファンドの純資産総額に年率0.011%（税込）をかけた額（上限年99万円） ・ 組入価証券の売買の際に発生する売買委託手数料 ・ 資産を外国で保管する場合にかかる費用 ・ 信託事務等にかかる諸費用 ※ 監査にかかる費用を除く上記の費用・手数料等は、取引等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、事前に表示することができません。

※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、東京海上アセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。お申込みに当たっては必ず投資信託説明書（交付目論見書）をご覧の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）は販売会社までご請求ください。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載された運用実績は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- 投資信託は、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。
- 投資信託は、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。
- 登録金融機関から購入した投資信託は、投資者保護基金の補償対象ではありません。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社：東京海上アセットマネジメント株式会社
ファンドの運用の指図を行います。
商号等： 東京海上アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第361号
加入協会：一般社団法人 資産運用業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
- 受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社
ファンドの財産の保管・管理を行います。
- 販売会社

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会				
				日本証券業協会	資産運用業協会	一般社団法人 取引業協会	一般社団法人 金融先物協会	第二種金融商品取引業協会
あかつき証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第67号	○	○			
朝日信用金庫	○		関東財務局長（登金）第143号	○				
株式会社 足利銀行	○		関東財務局長（登金）第43号	○			○	
株式会社 イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○		関東財務局長（登金）第633号	○				
株式会社 S B I 証券		○	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○	
株式会社 S B I 新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社 S B I 証券）	○		関東財務局長（登金）第10号	○			○	
株式会社 S B I 新生銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○		関東財務局長（登金）第10号	○			○	
株式会社 愛媛銀行	○		四国財務局長（登金）第6号	○				
おかやま信用金庫	○		中国財務局長（登金）第19号	○				
ぐんぎん証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第2938号	○				
株式会社 三十三銀行	○		東海財務局長（登金）第16号	○				
静銀ティーエム証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第10号	○				

Monthly Report

東京海上・宇宙関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

委託会社、その他関係法人

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	資産運用業協会	一般社団法人 取引業協会 金融先物 取引業協会	一般社団法人 取引業協会 第二種金融商品
株式会社 七十七銀行	○		東北財務局長（登金）第5号	○		○	
株式会社 東京スター銀行	○		関東財務局長（登金）第579号	○		○	
とちぎん T T 証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第32号	○			
株式会社 鳥取銀行	○		中国財務局長（登金）第3号	○			
野村証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第142号	○	○	○	○
百五証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第134号	○			
ひろぎん証券株式会社		○	中国財務局長（金商）第20号	○			
ほくほく T T 証券株式会社		○	北陸財務局長（金商）第24号	○			
松井証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
三菱 U F J e スマート証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
楽天証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※販売会社によっては、現在、新規申込みの取扱いを中止している場合があります。

※野村証券株式会社は一般社団法人日本STO協会に加入しています。



投資信託 テクノロジー関連外国株式部門

東京海上・宇宙関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

「投資信託部門」は過去3年間を選考期間とし、選考に際してはシャープレシオによるランキングに基づき、最大ドローダウン、償還予定日までの期間、残高の規模等を加味したうえで選考しています。選考対象は確定拠出年金専用およびSMA・ラップ口座専用のファンドを除く国内公募追加型株式投資です。（評価基準日：2026年3月31日）

※当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証したものではありません。

当ファンドの照会先

前掲の販売会社または下記までお問い合わせください。

東京海上アセットマネジメント

サービスデスク 0120-712-016

受付時間：営業日の9時～17時

ホームページ <https://www.tokiomarineam.co.jp/>

東京海上アセットマネジメント
YouTube公式チャンネル

ファンド・マーケット関連動画などを公開しています。



※7ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。